1.目次

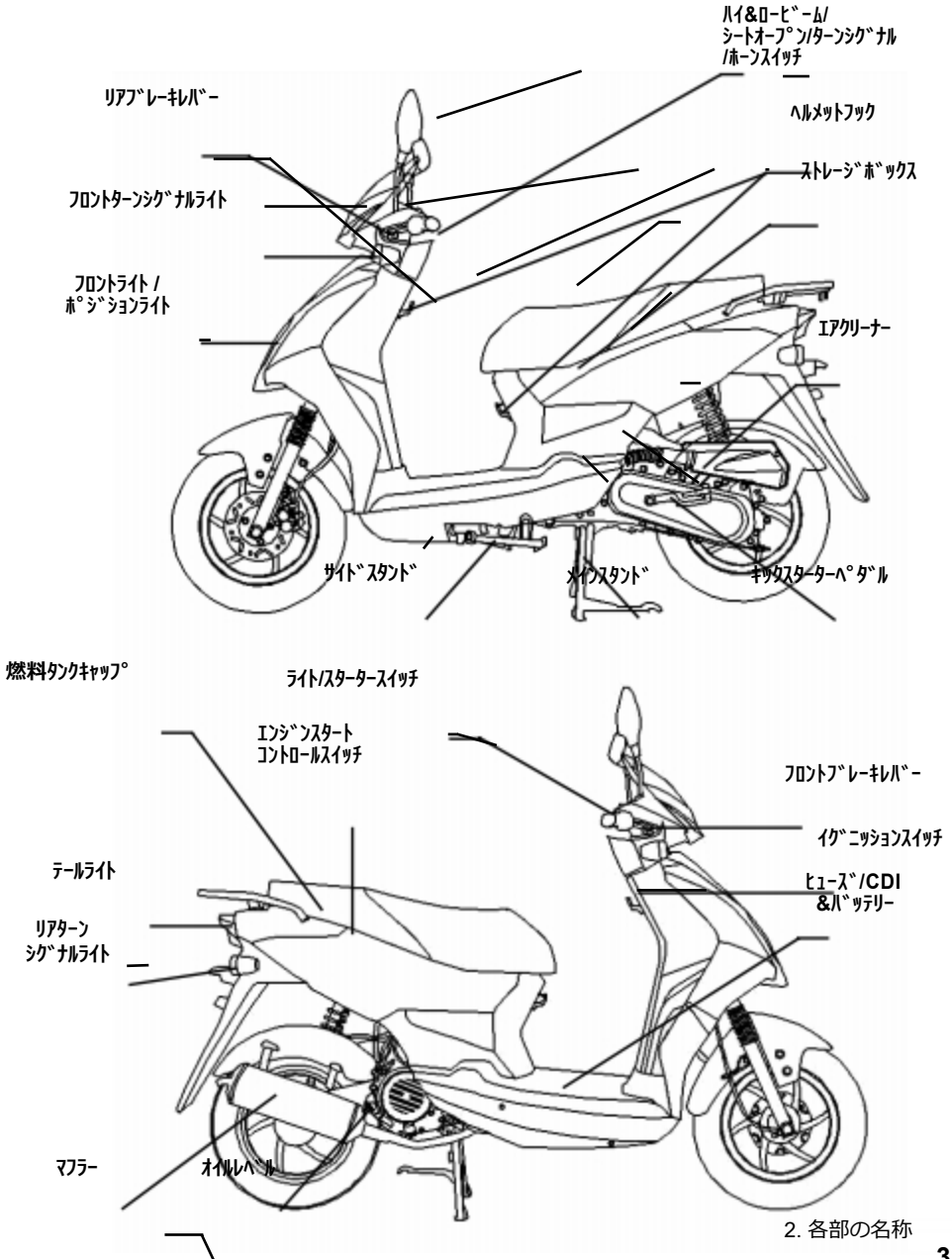
1. 目次 1
2. 各部の名称..... 3
3. お乗りになる前に..... 4
4. 安全運転 4
5. 運転 5
6. 純正部品の使用 5
7. 各部の使用方法 6
ゲージ(計器類).....6
イグニッションスイッチの操作.....7
ハンドルロックスイッチの操作 7
シートオープンスイッチの操作.....7
各ボタンの操作 7
ストレージボックス 9
ヘルメットホルダー.....10
燃料タンクキャップ.....10
ブレーキ.....10
8. エンジン始動時の重点事項と注意点 11
9. 正しい発進の仕方 12
スロットルのコントロール 12
駐車方法 12
10.乗車前点検とメンテナンス 13
日常点検 13
エンジンオイルの点検と交換.....13
燃料の点検 14
トランスミッションオイルの点検と交換.....14
ブレーキの遊びの点検と調整 15
ディスクブレーキの点検(モデルによる) 16
スロットルの遊びの調整 17
バッテリーの点検とメンテナンス 17
タイヤの点検 18
フロントショックアブソーバーの点検 18
ヒューズの点検と交換 19
ターンシグナルライトとホーンの点検 19
フロントとリアのライトの点検 19
ブレーキライトの点検 19

1.目次

燃料漏れの点検 20
ボディ各所の潤滑点検 20
スパークプラグの点検 20
エアクリーナーの点検 20
11. 異常やトラブルが発生したとき 21
エンジンが始動しないときの診断.....21
12. C.D.I. イグニッションシステム 21
13. 推奨燃料について 21
14. トランスミッションオイル 21
15. オートバイに乗るときの注意 22
16. 定期メンテナンススケジュール 23
17. 仕様諸元 24

2.各部の名称

モデル: AV05W-6



2. 各部の名称

3.お乗りになる前に

このマニュアルは、安全運転や基本的な点検方法などを含む、このオートバイの正しい使用について説明しています。安全で快適にお乗りいただくために、このマニュアルをよくお読みください。

さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、SYM正規販売店にお問い合わせいただき、作業マニュアルを下記の通りよくお読みください。

- オートバイの正しい使用方法。
- 納車前検査とメンテナンス。

この度は本製品をお選びいただきまして誠にありがとうございます。
オートバイの性能を最大限に活かすために、定期点検やメンテナンスは必ず行うようにしてください。
新車購入後300km走行されましたら、ご購入のSYM正規販売店にお持ちいただいて初回点検を受けるようにしてください。その後は1000km走行するごとに点検を行いましょう。

- 車両の諸元や構造は予告なく変更され、実際の車両とマニュアル内の写真や図とは異なる場合がございます。

4. 安全運転

オートバイに乗るときは、交通状況をよく見極め、焦らず、正しい服装で余裕をもって運転してください。新車を購入した直後はたいていよく注意してオートバイに乗るものですが、慣れてくるごとに油断が出てきて事故を起こしやすくなる傾向にあります。

忘れないようにしましょう:
オートバイに乗るときは、必ずヘルメットを被り顎ひもをしっかりしめてください。走行中、風にあおられて、服の袖や裾がハンドル等にひっかかり運転に支障をきたさないよう、服装が大きすぎたりだぶついたものは避け、特に袖や袖口はタイトなものを選びましょう。
危険ですから、片手運転は絶対にしないでください。
制限速度を守りましょう。
ヒールが高すぎない、運転に適したシューズを履きましょう。
定期点検やメンテナンスは、スケジュールに従って正しく行ってください。

警告!!
同乗者を後ろに乗せるときは、マフラーの熱で火傷を負わせないよう注意してください。
同乗者の足がペダルにしっかりとかけられているか気を付けましょう。
走行後、マフラーは非常に熱くなっています。点検やメンテナンスの際は十分に気を付けて行うようにし、また他の人がマフラーで火傷をすることがないよう、停める場所にも注意しましょう。

注意:
オートバイの改造は構造や性能に影響を及ぼし、エンジンの機能を落としたり騒音を発生させる原因となり、結果的にオートバイの寿命を縮めることにつながります。
さらに、改造は違法行為になり、それによって生じた不具合や故障は、車両保証の対象にはなりませんのでご注意ください。

5.運転

- **運転時のライダーの姿勢はとても大切です。とっさのことが起こった際に瞬時に対応できるよう、運転するさいは手のひらや腕、腰や足（爪先）をリラックスさせた姿勢で、常に余裕をもって運転しましょう。**
- 身体の重心（中心）は、常にシートの真ん中にくるようにしましょう。重心が後ろにくるとフロント荷重が減り、ハンドルが振られる原因となり非常に危険です。
- カーブなどでは、ライダーが身体を内側に倒すことでよりスムーズに曲がることができます内側に身体を倒さずに曲がろうとすると、不安定になり危険です。
- オートバイは、凸凹道や未舗装路を走行時はコントロールが難しくなる乗り物です。そのような道路では、あらかじめ路面の状況をよく見極め、スピードを落としてしっかりとハンドルを支えて走行しましょう。
- ハンドルの操作性や安全運転に支障をきたさないためにも、足元に荷物を積載しないでください。

⚠ 注意:
ハンドルから伝わってくる感覚は、積載のある時と無いときとでは若干違ってきます。過積載はハンドル操作の妨げになり、安全運転に支障をきたします。
荷物は積み過ぎないようにしましょう。

⚠ 注意:
- 火災の原因になりますので、布のような燃えやすい物をエンジンとボディの間に挟んだりしないでください。
- 車両へのダメージを防ぐためにも、定められた場所以外に荷物を積まないでください。

助言
オートバイの性能を最大限に活かし、より長くご使用いただくために:
最初の走行1000kmは慣らし期間です。急激にアクセルを開ける操作は避け、できるだけ60km以下のスピードで走行するようにしましょう。

6. 純正部品の使用

メンテナンスによりオートバイを最良の状態に保つため、それぞれの部品の品質や素材、機器精度は、必ず規格に合ったものを使用してください。**SYM正規純正部品**は、高品質素材の純正部品です。指定の販売店や流通経路以外で販売されることは禁止されていますので、必ず、お近くのSYM正規販売店にてお求めいただきますようお願いいたします。安価なものや代替品をご使用されますと、車両の保証が適用されなくなります。また、純正品以外のものをお使いいただいた場合、予測不能な不具合が発生する可能性がございますのでご注意ください。

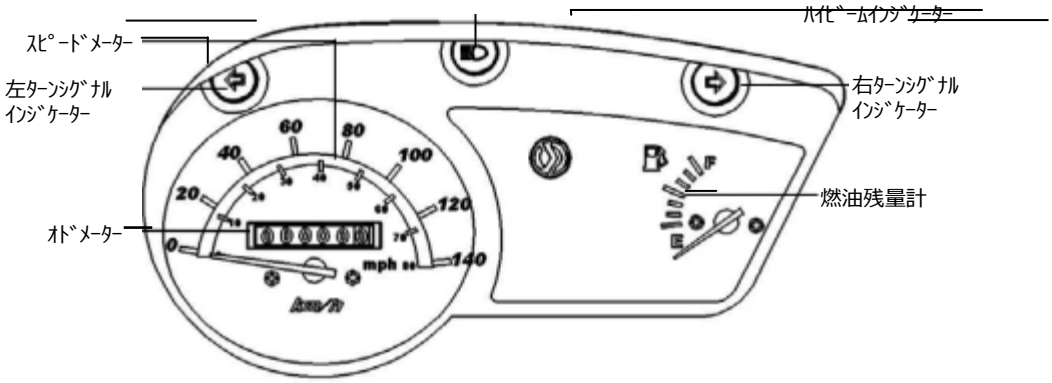
- オートバイの寿命をより長く、車両の状態を最良に保つためにも、SYM純正部品をご使用ください。.

7.各部の使用方法

(下記は、SYM 4 ｽﾄﾛｰｸ 空冷 50 cc ｽｸｰﾀｰの基本操作です。各モデルにより、多少異なる部分がございます。巻末の表をご参照ください。)

§ゲージ(計器類)§

スピードメーターパネルの形状はモデルごとに異なりますが、各部の位置（配置）は概ね同じです。



⚠ **注意:**
ダメージを与える場合がありますので、ガソリンのような有機溶剤でパネル表面やヘッドライトなどのプラスチック面を拭かないでください。

- **スピードメーター**：
  運転中の走行速度を表します。
- **オドメーター**：
  累計走行距離を表します。
- **ハイビームインジケーター**：
  ヘッドライトがハイビームになっていると点灯します。
- **左/右ターンシグナルライトインジケーター**：
  左/右のターンシグナルをオンにすると、連動する同方向のインジケーターが点滅します。
- **燃油残量計:**
  針はタンク内の燃油残量を示します。メインキーをオフにすると、針はE(Empty=空の)の位置に留まります。

§ イグニッションスイッチの操作 §

“オン” ポジション:
- エンジンをかけることができます。
- キーを抜くことはできません。

“オフ” ポジション:
- エンジンは止まり、かけることはできません。
- キーを抜くことができます。

§ ハンドルロックスイッチの操作 §

“ハンドルロック” ポジション
- ハンドルを左に切ってキーを差し込みます。
  キーを押しながら左に回してハンドルをロックします。
  キーを抜くことができます。
- 解除するときは、“ロック”
- ポジションから “オフ” ポジションに回します。

⚠ 注意:
- シートをロックする前に、キーを抜くのを忘れないようにしましょう。

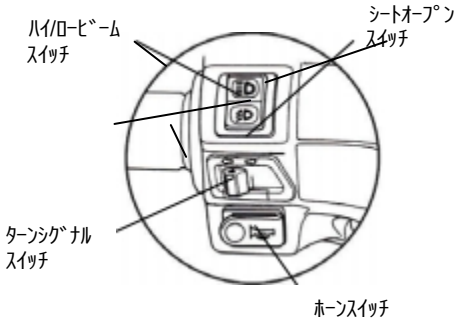
§ シートオープンスイッチの操作 §

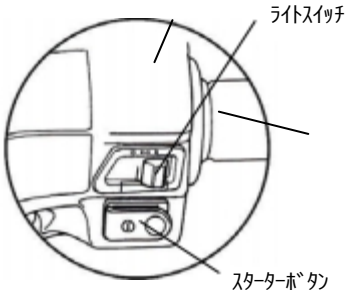
シートオープンポジション

キーを差し込んで、押し込まずに半時計回りに回します。
- シートを開けて、給油します。

⚠ 注意:
- 走行中にイグニッションスイッチキーを操作することは絶対にしないでください。キーを “オフ” または “ロック” ポジションにすると電気系統システムが全て落ち、アクシデントを招く可能性があり非常に危険です。キーをオフにするのは、必ずオートバイを完全に停止させてから行ってください。
- オートバイから離れる際は、必ずハンドルをロックしてキーを抜き取ってから離れてください。
- エンジンを停止させたあと、キーを “オン” ポジションに長時間（長期）差したままにしておくと、バッテリーの電圧が下がりエンジンがかかりにくくなります。シートを閉める前に、必ずキーを抜き取るようにしましょう。

§ 各ボタンの操作 §





- **ライトスイッチ**

エンジンがかかっている状態でこの位置にすると、ヘッドライト、リアライト、メインパネル、ポジションライトが点灯します。ハイビーム（ヘッドライト）の切り替えスイッチです。

エンジンがかかっている状態でこの位置にすると、リアライト、メインパネル、ポジションライトが点灯します。

この位置にすると、全てのライトが消灯されます。

- **スターターボタン**

エンジンを始動するための、セルモーターボタンです。
メインスイッチをオンにしたら、フロントかリアどちらかのブレーキレバーを握りながらこのボタンを押してエンジンを始動させます。

> ⚠ **注意:**
> - エンジンが始動したら速やかにボタンを離します。故障の原因になりますので、エンジン始動後にボタンを押すことはしないでください。
> - フロントまたはリアブレーキレバーが握られていないとエンジンを始動できないように、安全装置が機能しています。
> - エンジンがかかっているときに、ヘッドライトやターンシグナルライト等のライトスイッチをオフにしないでください。

ハイ/ロービームスイッチ

- ヘッドライトの、ハイとローの切り替えスイッチです。スイッチを押して切り替えてください。

ハイビーム

ロービーム(市街地ではロービームにしてください)

シートオープンスイッチ

給油時と同じ手順でシートを開けてください。
シートを閉めたら、軽くシートを持ち上げてみてしっかりと閉まっているか確認しましょう。

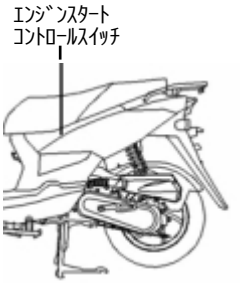
> ⚠ **注意:**
> - シートをロックしたら、キーを抜き取るのを忘れないようにしましょう。
> - キーの閉じこみを防ぐために、シートを開けているときには、キーをストレージボックスに入れたままにしないでください。

- エンジンスタートコントロールスイッチ

このスイッチはシート下にあります。

“ON” ポジション: エンジンは始動できません。

“OFF” ポジション: このスイッチがオフの状態でイグニッションスイッチをオンにして、ブレーキレバーを握りながらスターターボタンを押すと、エンジンを始動することができます。



- **ホーンスイッチ**

イグニッションスイッチがオンのとき、このボタンを押すとホーンが鳴ります。

- **ターンシグナルスイッチ**

右左折や、車線変更の際にターンシグナルライトを使用します。

イグニッションスイッチがオンの状態で、ターンシグナルスイッチを左右にスライドさせると、連動するターンシグナルライトが点滅します。

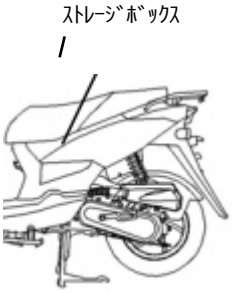
スイッチを元に戻すと、ターンシグナルライトは消灯します。

右方向のライト点滅は右折。

左方向のライト点滅は左折。

§ ストレージボックス §

- ストレージボックスは、シート下にあります。
- 最大積載量：5kg.
- 貴重品は入れないでください。
- シートを押し下げて閉めたあとは、必ずきちんと閉まっているか確認しましょう。
- 濡れては困るような物は、洗車の前に取り出してください。
- ボックス内は、エンジンの熱で熱くなります。熱に弱い物は入れないでください。



§ ヘルメットホルダー §

- オートバイを停止させ、ヘルメットの顎ひもをフックにかけて固定します。

注意:
危険ですから、フックにヘルメットをかけたまま走行しないでください。

§ 燃料タンクキャップ §

1.キーをメインスイッチに差し込みシートを開けます。燃料タンクキャップを反時計回りに回して開け、取り外します。
2.給油の際は、上限ラインを越えないように気を付けてください。
3.タンクとキャップの “△” マークを合わせて時計回りに回して閉めてから、シートをロックします。

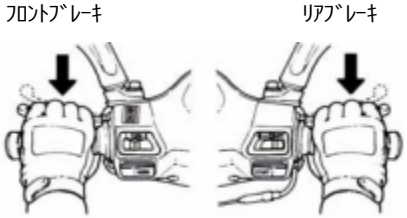
⚠ 注意:
- メインスタンドを地面にしっかりと立てます。エンジンを停止させ、決して火気を近づけないように厳重に注意してから給油を行いましょう。
- 給油は上限ラインを越えないようにしてください。給油口からあふれた燃料は、ボディの塗装を傷つけたり、最悪の場合、引火して車両火災を引き起こす危険性があります。
- 給油口のフタは、しっかり閉まっているか確認しましょう。

§ ブレーキ §

- 不必要な急ブレーキは避けましょう。
- フロントとリアブレーキを同時に使用するようにしましょう。
- オーバーヒートの原因となりブレーキが利きにくくなる可能性がありますので、長時間にわたり継続してブレーキをかけ続けないようにしましょう。
- 雨天時や滑りやすい路面では、スピードを落として走行しましょう。スリップや転倒を避けるため、急ブレーキは避けるようにしてください。
- フロントかリア、どちらかのブレーキを一方だけかけると、オートバイはバランスを崩しやすくなり転倒の原因となります。

《 エンジンブレーキ 》

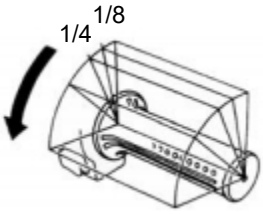
スロットルを戻すことによって、エンジンブレーキがかかります。
長い坂や急な坂道を走る際は、前後ブレーキを断続的に使用しながら注意深く走行してください。



8.エンジン始動時の重点事項と注意点

⚠ **注意:**
- エンジンをかける前に、オイル類や燃料の残量は十分か確認しましょう。
- エンジンをかける際は、オートバイが急発進するのを防ぐためにも、必ずしっかりとリアブレーキレバーを引きながら始動させてください。

1.イグニッションスイッチキーをオンにします。
2.リアブレーキをかけながら行います。
3.スターターボタンを押すとき、アクセルは開けないでください。



［車両の急発進を防ぐために、必ずリアブレーキをかけながら行ってください］

⚠ **注意:**
- キックスターターアームを3～5回試してもエンジンがかからない時は、スロットルを 1/8~1/4 回転ほど開けて行うとかかり易くなります。
- 故障の原因になりますので、スターターモーターは15秒間以上押し続けないでください。
- スターターボタンを15回以上押してもエンジンがかからない時は、10秒ほど置いてから再び試してください。
- 長期間オートバイを動かさないでおいたり、ガス欠してガソリンを入れた直後などは、エンジンが非常にかかりにくい状態になります。そのような場合、スロットルは閉じたままでスターティングレバーまたはスターターボタンを数回試してください。
- エンジンが冷えている場合は、数分間の暖機運転が必要です。
- 排気ガスは有害な物質を含んでいます(CO)。エンジンをかける際は、換気の良い場所で行ってください。

【スターティングレバーでエンジンをかけるとき】
- スロットルは閉じたまま、キックスターターを足で力強く押し下げます。
- エンジンが冷えているなどで、なかなかかからないときは、スロットルを1/8~1/4回転開けて行うとかかり易くなります。
- エンジンがかかったら、キックスターターはもとの位置に戻してください。

⚠ **注意:**
- キックスターターアームでエンジンをかける場合は、必ずメインスタンドを立ててオートバイを安定させてから行ってください。
- キックスターターは、長期間オートバイを使用しないでかかりにくくなった場合に役立ちます。

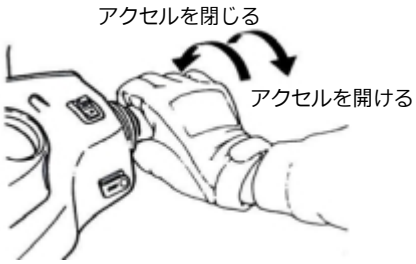
9.正しい発進の仕方

- 動き出す前に必ずターンシグナルライトを点滅させ、他の車両が来ないことをよく確認してから発進させます。

§ スロットルのコントロール §

アクセルを開ける : スピードを上げます。坂道を上る際は、スロットルを開けてエンジンのパワーを上げて走ります。

アクセルを閉じる : スピードを落とします。



§ 駐車方法 §

- 駐車スペースに近づいたら:

1. 早めにターンシグナルライトを点滅させます。前後左右からの他の車両に注意を払いながら、焦らず路肩側の車線に車線変更してください。
2. スロットルを戻してブレーキをかけます(ブレーキライトを点灯させることによって、他の車両に意思表示することができます)。

- **車両を停止させたら:**

3. ターンシグナルスイッチを元にもどして、イグニッションスイッチキーをオフにしエンジンを停止させます。
4. 完全にエンジンを停止させたのち、オートバイの左側から降車します。車両駐車位置が周辺の交通の妨げになっていないか、平坦で安全な場所に駐車されているか確認してからメインスタンドを立てます。
5. ハンドルを左手で持ち、シートの前の端か左横のグラブハンドルを右手で持ちます。
6. 両手はそのまま車両を支えながら、メインスタンドを右足で踏み下げてスタンドを立て、車両を安定させます。

忘れずに: 車両の盗難を防止するために、ハンドルをロックしキーを必ず抜き取りましょう。

⚠ **注意:**
- 駐車するときは、交通の妨げにならない場所に駐車しましょう。

10.乗車前点検とメンテナンス

(表中項目の所在については、各部の名称の項をご参照ください)

§ 日常点検 §

点検項目		点検事項
エンジンオイル		オイルの補充量は十分か？
燃料		残量は十分か？(オクタン価90以上のガソリン)
ブレーキ	フロント	レバーを握ったとき違和感はないか？ (ブレーキの遊び: 10~20mm)
	リア	レバーを握ったとき違和感はないか？ (ブレーキの遊び: 10~20mm)
タイヤ	フロント	空気圧は標準値以内ですか？ (標準値: 1.75kg/cm^2)
	リア	空気圧は標準値以内ですか？ (標準値: 2.0 kg/cm^2/1名乗車時, 2. 25 kg/cm^2/2名乗車時)
ハンドル		ハンドルに異常な振動や曲がりにくさはないか？
スピードメーター, ライト, ミラー		メーターは正常に機能しているか？ ライトは点灯するか？ミラーの視界は鮮明か？
主要部品の締結		ネジやナットは緩んでいないか？
故障(修理済み)部位		修理済みの部位に異常は見られないか？

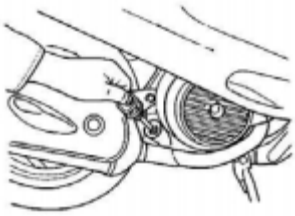
⚠ **注意:**

- 日常点検の際に見つかった異常部位は、放置せずに必ず修理してください。点検・修理のご用命は、SYM正規販売店にて承ります。

§ エンジンオイルの点検と交換 §

点検:

1. 平坦な場所でメインスタンドを立て、車両を水平に安定させます。エンジンを停止させて3～5分おいたあと、ディップスティックを取り外します。
   ディップスティックを布で拭きとって確認し、再びガイドチューブに戻します(この時ディップスティックは回しこま軽く差しておくだけにします)。
2. 再度ディップスティックを取り除き、オイルレベルが上限と下限のラインの間にあるかどうか確認します。
   下限ラインよりさがっていたら、上限ラインまでオイルを補充します(シリンダーやクランクケースなど、オイル漏れがないか確認してください)。

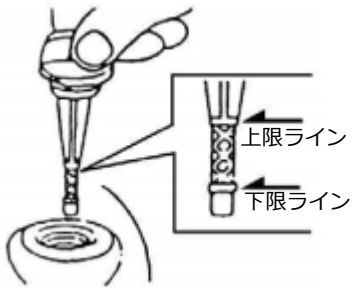


オイル交換:

- 初回走行300km, その後は1000kmごとにエンジンオイルを交換してください。
- エンジンの性能を最大限に活かすためにも、500km走行ごとにエンジンオイルの量が十分か確認してください。不足している場合は、上限ラインまで補充します。
- エンジンオイル : (API) SL/CFSAE 10W-30 と同等または同程度のグレードを推奨。それ以外のオイル使用による不具合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。

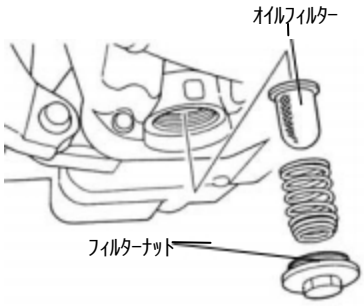
※推奨オイル:MOTUL 3100 GOLD 4T　10W40

- オイル容量 : 0.85 ﾘｯﾀｰ(日常点検時0.75 ﾘｯﾀｰ), フィルター交換時: 0.75 ﾘｯﾀｰ



【オイルフィルター清掃】

フィルターエレメントの部品を分解して、エレメントを外します。ガソリンやエアスプレーガンなどでフィルターの異物を除去してください。



⚠ **警告:**

- エンジンを停止した直後や、車両が平坦な場所に静置されていないと、正しいオイルレベルは測れません。
- エンジン停止直後は、エンジンや排気管は非常に熱くなっています。オイル点検や交換の際は、火傷をしないように注意してください。
- 補充をしてもすぐにオイルレベルが下限を下回ってしまうときは、液漏れがないか確認し、再度補充を行ってください。
- オイル補充の際は、火花や火気には決して近づけないよう注意してください。.

§ 燃料の点検 §

- メインスイッチキーをオンにして、燃油残量計の針が燃料の十分な残量を示しているか確認します。
- このオートバイのエンジンは、オクタン価90以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- メインスタンドをしっかりと地面に立ててエンジンを停止し、火気を遠ざけて給油をしてください。
- 給油の際は、上限ラインを越えないように注意してください。
- 給油後は、フタがしっかりと閉まっているか必ず確認しましょう。

§ トランスミッションオイルの点検と交換 §

点検:

- エンジンを停止して3～5分ほどおいたのち、平坦な場所にしっかりとオートバイを静置させます。トランスミッションオイル注入ボルトを取り外し、ドレンボルトの下に計量容器(カップやメスシリンダーなど)を置いてからドレンボルトを外します。計量容器にオイルを排出させ、オイル量の過不足を確かめます(分解時:110c.c 交換時:90~100c.c.)。

オイル交換:

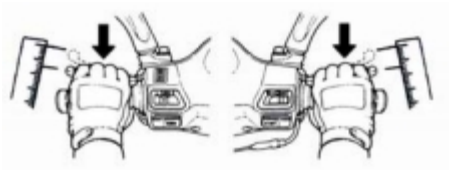
- 平坦な場所にメインスタンドを立ててオートバイを静置させます。注入ボルトとドレンボルトを外し、オイルを排出させます。
- ドレンボルトを取り付けてしっかりと閉めます。新しいトランスミッションオイルを補充します(90~100c.c.)。注入ボルトをしっかりと閉め、漏れがないかよく確認します。
- 推奨オイル: MOTUL 3100 GOLD 4T　10W40 (SAE 85W-140).

§ ブレーキの遊びの点検と調整 §

点検: (ブレーキレバーの遊びの点検は必ずエンジンが停止しているときに行ってください)

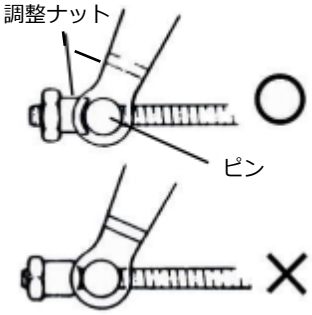
- フロント/リアのブレーキレバーの遊び
  - ◆フロント/リアブレーキのレバーの遊び(握り始めてからブレーキが利き始めるまでの距離)は、概ね10~20mmくらいです。レバーを握った感覚がもしスポンジのような感触だと、正常ではありませんので注意しましょう。

10~20 mm



調整 : (ドラムタイプ)

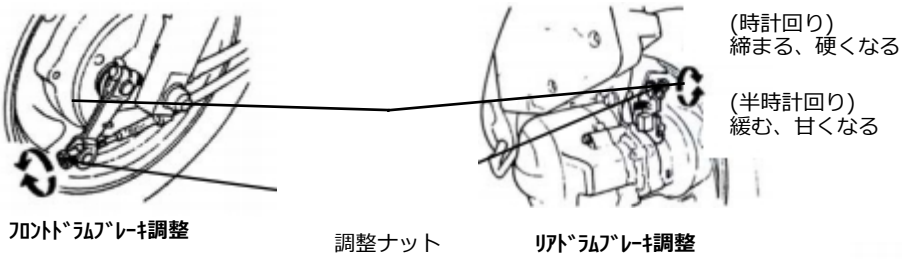
- ブレーキの遊び調整は刻み目のあるロッドとピンで行います(下図を参照)。



注意:

遊びが10~20 mmの時に、フロント/リアブレーキの摩耗インジケーターも確認しましょう。もしブレーキディスクの△マークの所に矢印がきていたら、ブレーキライナーが摩耗していることを示しますので、交換してください。

- フロントとリアのブレーキアームの調整ナットを回して、レバーの遊び調整を行います。
- ブレーキレバーを握りながら、ブレーキが利き始める場所まで調整していきます。
- 遊びを定規で計測しながら行いましょう。



§ ディスクブレーキの点検 § (ディスクブレーキ装着モデルのみ)

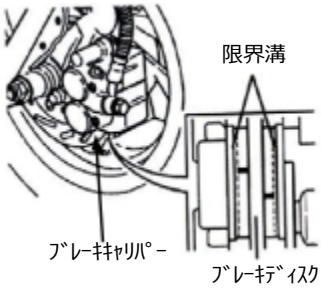
（漏れ、損傷、緩みがないか）

• ブレーキラインからの液漏れや損傷はないか目視で確認します。 ハンドルから伝わる走行振動などで、ブレーキライン接続部に緩みがでていないかレンチや同等の工具を使用して確認します。またブレーキラインとハンドル周りの部分が干渉し合っていないか確認します。損傷などが見つかったら、速やかにお近くのSYM正規販売店にて修理を行ってください。

注意:
乾いた平坦な路面をゆっくりと走らせ、前後ブレーキを試しがけして、異常や違和感がないか確かめてみましょう。車両をより長く安全にお楽しみいただくためにも、小さな不具合を見逃さないようにしましょう。

（ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾆﾝｸﾞの点検）

- ブレーキキャリパーの後ろ側から確認します。ブレーキパッドが摩耗して限界溝に近づいていたら、速やかに新しいパッドと交換しましょう。

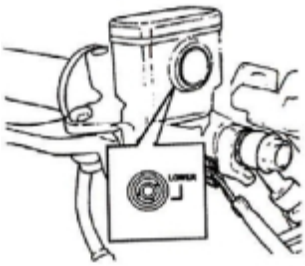


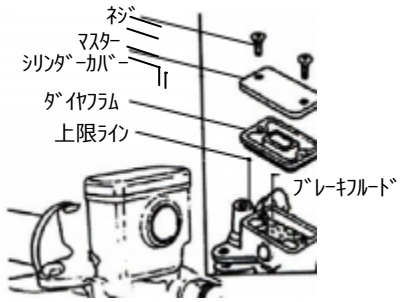
（ﾌﾛﾝﾄﾀｲﾔﾌﾞﾚｰｷﾌﾙｰﾄﾞの交換）

1.ネジを緩めてマスターシリンダーカバーを外します。
2.リザーバー周りの泥や異物を拭き取ります。異物が再び中に入らないように十分気を付けてください。
3.ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを外します。
4.新しいブレーキフルードを上限ラインまで補充します。
5.ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを再び取りけ、マスターシリンダーカバーを被せます。
6.ダイヤフラムの取り付け方向に注意しながら、異物が入り込まないようにしてマスターシリンダーカバーでしっかりとフタをします。

（ﾘｻﾞｰﾊﾞｰ内のﾌﾞﾚｰｷﾌﾙｰﾄﾞ量点検）

- Pオートバイを平坦な場所に静置して、液レベルが下限マークより下がっていないか確認します。推奨ﾌﾞﾚｰｷﾌﾙｰﾄﾞ: DOT 3

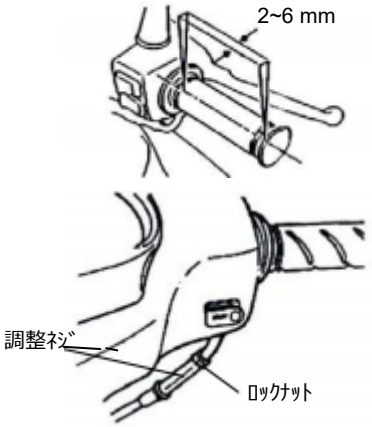




⚠ 注意:
- 低品質のフルードを使用することによる薬品ダメージ等を防ぐために、ブレーキフルードは必ず
- 推奨のものを使用してください。ボディの塗装やプラスチック部分を傷つける恐れがありますので、液補充の際は上限ラインを越えて溢れないように気を付けましょう。

§ スロットルの遊びの調整 §

- 好ましいスロットルの遊びは、概ね2~6mmです。
- ロックナットを最初に緩めてから、調整ナットを回して調整します。調整終了後は、ロックナットをしっかりと締めてください。



点検項目:

1. スロットルを大きく開けたり閉じたりして、スロットルケーブルがスムーズに動くか点検します。
2. ハンドルを左右に大きくきって、スロットルケーブルがハンドルに干渉していないか確認します。
3. スロットルケーブルが他のケーブルと干渉し合っていないか、よく確認します。

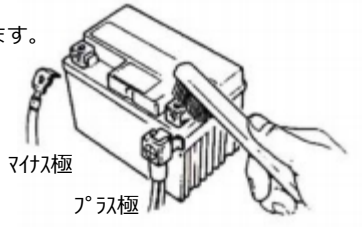
§ バッテリーの点検とメンテナンス §

- このオートバイはメンテナンスフリーバッテリーを搭載していますので、点検や電解液の補充は必要ありません。もし不具合や異常が見つかった時は、お近くのSYM正規販売店にお尋ねください。

（**バッテリー端子の清掃**）

バッテリー端子を取り外し、泥や付着物があれば清掃します。
バッテリー端子の取り外し手順は以下です:

- イグニッションスイッチをオフにします。
- 最初にマイナス極のネジを緩めてマイナスケーブルを外してから、プラス極のネジを緩めてプラスケーブルを外してください。



⚠ **注意:**

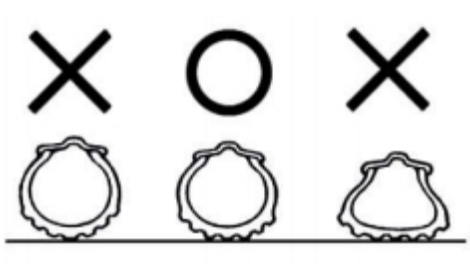
- バッテリー電極が腐食していたり白い粉が付着している場合は、お湯で洗いよく拭き取ってください。
- 端子の腐食が激しい場合はケーブルを外して、スチールブラシやサンドペーパーなどで擦り取ってください。
- 清掃が終わったら、端子にグリースを薄く塗布しておきましょう。
- 外すときと逆の手順でバッテリーを取り付けます。

⚠ **注意:**

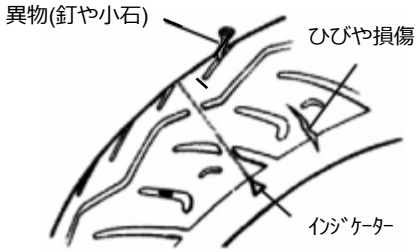
- このバッテリーは密閉型バッテリーです。決してキャップは外さないでください。
- 漏電や自然放電を防ぐために、長期間オートバイに乗らないときはバッテリーを外しておいてください。外したバッテリーは、充電してから換気の良い暗所に保管してください。バッテリーを
- 取り外せない場合でも、マイナスケーブルは外しておくようにしましょう。
  バッテリー交換が必要な場合は、同じ密閉型のメンテナンスフリーバッテリーと交換してください。

§ タイヤの点検 §

- タイヤの点検と空気を入れる際は、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 地面に接地しているタイヤの曲線が正常でない場合は、エアプレッシャーゲージで適切な空気圧か確認しましょう。
- エアゲージなどで空気圧を測るときは、必ずタイヤが冷えているときに行ってください。



タイヤの標準空気圧値は、仕様諸元を参照してください。



- ひびや損傷がないか、正面や側面から目視で確認します。
- 釘や小石が溝に刺さったり挟まっていないか、目視で確認します。
- 溝の深さは適切な範囲か、摩耗インジケーターで確認します。
- 摩耗インジケーターのラインが見えていたら、速やかに新しいタイヤと交換しましょう。

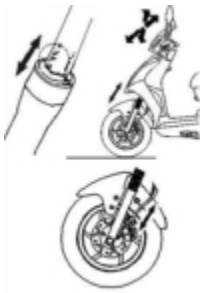
⚠ **注意:**

- 正常ではない空気圧や摩耗、ひびなどは、ハンドルのコントロールを失ったりタイヤをパンクさせる大きな原因となります。

§ フロントショックアブソーバーの点検 §

エンジンを停止させ、イグニッションキーをオフにしてから行ってください。

- 損傷はないか、まず目視で確認します。
- ハンドルを上下させて、異音がしないか確認します。
- レンチなどを使用して、ボルトやナットの緩みがないか確認します。
- ハンドルを上下左右前後に揺すって、反発の硬さや柔らかさが、どちらか一方に偏っていないか確認します。
- ハンドルがブレーキケーブルを引っ張り過ぎていないか確認します。



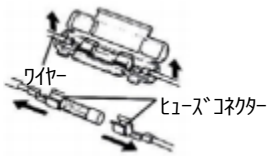
- 異常や不具合があれば、速やかにお近くのSYM正規販売店にて、修理を行ってください。

§ ヒューズの点検と交換 §

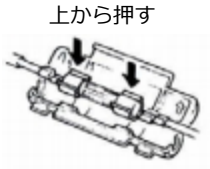
イグニッションスイッチをオフにして、ヒューズが飛んでいないか確認します。飛んでしまったヒューズは、仕様に合ったアンペアの新しいものと交換しましょう (7A)。7アンペア以上のヒューズを使用したり、真鍮や鉄製のワイヤーを代替品として使用するのは、電装システムや回路に損傷を与えますので厳しく禁じられています。

- ストレージボックス(荷物入れ)を取り外すと、バッテリーの近くにヒューズホルダーが見えます。
- ヒューズボックスカバーを開けて、ヒューズを取り出します。損傷がないか確認してください。
- ヒューズを取り付けるときは、ワイヤーコネクターでしっかりと固定しましょう。取り付けがあまいと、余計な負荷がかかり損傷の原因になります。
- ライトバルブなどの電装部品は、必ず仕様に合ったものを使用してください。適合しないものを使用すると、ヒューズが飛んだりバッテリーの過放電につながります。
- 洗車の際は、ヒューズボックスに水がかからないように注意しましょう。
- ヒューズを交換してもすぐに切れる場合は、交換する前に点検しましょう。原因がはっきりしない場合は、お近くのSYM正規販売店にて点検・修理を行ってください。

【取り外し】



【取り付け】



§ ターンシグナルライトとホーンの点検 §

- イグニッションスイッチキーをオンにします。
- ターンシグナルライトスイッチをオンにして、フロントとリアの左右のライトが点滅しているか、またシグナル音がするか確認します。
- ターンシグナルライトのカバーに、汚れやひび、緩みがないか確認します。
- ホーンボタンを押して、ホーンが鳴るか確認します。

> ⚠ **注意:**
> - ターンシグナルのライトバルブは、仕様に合ったものを取り付けてください。仕様に合わないものは、正常に機能しない可能性があります。
> - 後続のドライバーに知らせる為に、車線変更時は早めにターンシグナルを点滅させます。
> - 車線変更が終わったら、速やかにボタンを押してターンシグナルを消灯しましょう。消し忘れは、後続車に誤解を与える原因となります。

§ フロントとリアのライトの点検 §

- エンジンを始動させ、ヘッドライトスイッチをオンにします。ヘッドライトとリアライトが点灯しているか確認します。
- ヘッドライトの明るさと方向が適切か、壁などに照射して確認します。
  ヘッドライトのカバーが汚れていないか、ひびや緩みがないか確認します。

§ ブレーキライトの点検 §

- イグニッションスイッチキーをオンにして、フロントとリアのブレーキレバーを引き、ブレーキライトが点灯するか確認します。
- ブレーキライトカバーに泥やひび、緩みがないか確認します。

> ⚠ **注意:**
> ライトバルブは仕様に合ったものを使用してください。仕様以外のものは、電装システムの不具合や、バルブの焼き切れ、バッテリーの異常放電を引き起こす可能性があります。
> 余計な電装機器を使用して改造しますと、回路に過負荷がかかったりショートして、火災を引き起こす原因となりますので、十分注意しましょう。

§ 燃料漏れの点検 §

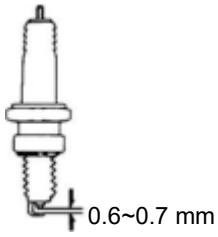
- 燃料タンクや燃料カップ、燃料ホースやキャブレターからの液漏れがないか確認します。

§ ボディ各所の潤滑点検 §

- ボディ各所の枢軸部分の潤滑は十分か確認します。
  (例えば、メインスタンド・サイドスタンド、ブレーキレバーの回転軸の部分など)

§ スパークプラグの点検 §

- スパークプラグケーブルのキャップを外します(ツールキット内のスパークプラグレンチを使用します)。
- 電極の汚れやカーボンで汚れていないか点検します。
- 電極のカーボン付着物はスチールワイヤーブラシなどで擦ります。プラグをガソリンで洗い、布で拭きとってください。
- 電極を確認し、ギャップを0.6~0.7 mm(フィーラーゲージで)に合わせましょう。
- 初めは手でしっかりと締めて、その後レンチで1/2~3/4回転させてさらに締めます。

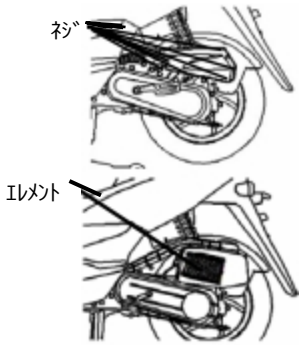


> ⚠ **警告:**
> 走行直後のエンジンは非常に熱くなっています。火傷しないように注意しましょう。
> ※使用するプラグは、エンジンの仕様に合ったものをお使いください(諸元を参照)。

§ エアクリーナーの点検 §

《分解の手順》

1. エアクリーナーカバーのネジを外します。
2. カバーを取り除き、フィルターエレメントを外します。
3. エレメントを清掃してください(メンテナンススケジュール参照)。



《組み立ての手順》

- 分解と逆の手順で、エアクリーナーを組み立てます。

> ⚠ **注意:**
> - エアクリーナーに埃がたまると、馬力が低下し燃費を悪化させる原因になります。
> - 埃の多い道路をよく走行する場合は、より頻繁にクリーナー清掃を行ってください。
> - クリーナーが正しく取り付けられていないと、埃がシリンダー内部に入り込み、エンジンのパワーが落ちたりエンジンの寿命を縮める原因となります。
> - オートバイを洗車する際には、エアクリーナーが水に浸からないように注意してください。浸水してしまうと、エンジンがかかりにくくなります。

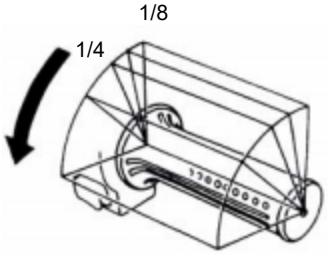
11.異常やトラブルが発生したとき

§ **エンジンが始動しないときの診断** §

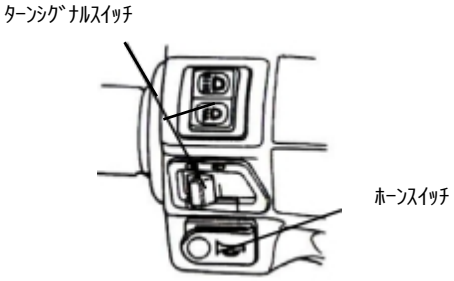
(1). イグニッションスイッチキーはオンになっていますか？

(2). 燃料は十分入っていますか？

(3). スターターボタンを押すときに、リアまたはフロントブレーキは、握られていますか



(4). スターターボタンを押している間、スロットルを開けてみていますか？



(5). イグニッションスイッチキーをオンにして、ホーンボタンを押してもホーンが鳴らない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。

【上記の項目を試してもエンジンがかからない場合は、速やかにお近くのSYM正規販売店にお尋ねいただき、車両を点検・修理してください】

12. C.D.I. イグニッションシステム

C.D.Iシステムとは、コンデンサーからの放電を利用した電子制御式点火装置です。バッテリーからの電圧を昇圧させてコンデンサーに充電し、その電荷を一気に放電してコイルに高電圧を発生させて点火・燃焼させます。

13. 推奨燃料について

このオートバイは、オクタン価90以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
標高の高い場所でオートバイを使用する際は(気圧の低い場所)、燃焼圧縮比を調整する必要があります。

14. トランスミッションオイル

推奨オイル : MOTUL 3100 GOLD 4T　10W40 (SAE 85W-140)

15.オートバイに乗るときの注意

1. メインスタンドでオートバイを静置させてからシートに座りましょう。
   オートバイを前方に押してメインスタンドを跳ね除けます。

> ⚠ **注意:**
> - 発進する前にスロットルをむやみに開けて、空ぶかしをすることは絶対にやめましょう。

2. オートバイの左側から乗車し、正しくシートに座ります。右足をしっかりと地面につけ、オートバイが倒れないように支えます。

> ⚠ **注意:**
> - 発進するまでは、リアブレーキをかけておくようにしましょう。

3. Rotate the throttle valve handle slowly, and then the motorcycle will begin to move.

> ⚠ **注意:**
> - 発進する前に、サイドスタンドを掃うのを忘れないようにしてください。

【急ブレーキや急旋回をしないでください】

- 急ブレーキや急旋回は、転倒の原因となります。
- 急ブレーキや急旋回は、雨天時や濡れた路面では特に、スリップや横滑り、また転倒の原因となります。

【雨の日は特に注意して走りましょう】

- 雨天時または濡れた路面では、制動距離は乾いた路面よりも長くなりますので、スピードはできるだけ抑えながら、ブレーキを早めにかけるように注意しながら走行しましょう。
- 坂道を下るときは、スロットルを戻し適切なブレーキをかけながらスピードを抑えて走行しましょう。

16.定期メンテナンススケジュール

項目	メンテナンス キロメーター / 点検項目 メンテナンス 周期	300KM	毎 1000KM	毎 3000KM	毎 6000KM	毎 12000KM	備考
		新車時	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	
1	ｴｱｸﾘｰﾅｰｴﾚﾒﾝﾄ (参照)	I	C		R(紙)	R(ｽﾎﾟﾝｼﾞ)	
2	ｴｱｸﾘｰﾅｰ	I					
3	ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰ (ｽｸﾘｰﾝ)	C			C		
4	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ	R	I	毎3000KM交換			
5	ﾀｲﾔ、 空気圧	I	I				
6	ﾊﾞｯﾃﾘｰ	I	I				
7	ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞ	I		I		R	
8	ｷｬﾌﾞﾚﾀｰ (ｱｲﾄﾞﾙｽﾋﾟｰﾄﾞ)	I			I		
9	ｽﾃｱﾘﾝｸﾞﾍﾞｱﾘﾝｸﾞとﾊﾝﾄﾞﾙ	I		I			
10	ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝからの漏れ点検	I	I				
11	ｸﾗﾝｸｹｰｽからの漏れ点検	I	I				
12	ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｵｲﾙ	R	毎5000KM(または5か月)交換				
13	ﾄﾞﾗｲﾌﾞﾍﾞﾙﾄ/ﾛｰﾗｰ				I	R	
14	燃料ﾀﾝｸｽｲｯﾁとﾗｲﾝ	I		I			
15	ｽﾛｯﾄﾙの動きとｹｰﾌﾞﾙ	I	I				
16	ｴﾝｼﾞﾝのﾎﾞﾙﾄとﾅｯﾄ	I		I			
17	ｼﾘﾝﾀﾞｰﾍｯﾄﾞ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ、ﾋﾟｽﾄﾝ				I		
18	排気ｼｽﾃﾑ/ｶｰﾎﾞﾝ清掃				I		
19	ｶﾑﾁｪｰﾝ/ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝﾀｲﾐﾝｸﾞ	I		I			
20	ｽﾛｯﾄﾙの遊び	I			I		
21	ｼｮｯｸｱﾌﾞｿｰﾊﾞｰ	I			I		
22	ﾌﾛﾝﾄ/ﾘｱｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	I			I		
23	Main/side stands	I			I/L		
24	ｸﾗﾝｸｹｰｽﾌﾞﾛｳﾊﾞｲｼｽﾃﾑ(PCV)	I		I			
25	ｸﾗｯﾁﾃﾞｨｽｸ				I		
26	ﾌﾞﾚｰｷ機構/ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾆﾝｸﾞ (ﾊﾟｯﾄﾞ)	I	I				
27	各部のﾎﾞﾙﾄ/ﾅｯﾄ	I	I				

☆上記メンテナンススケジュールは、一ヶ月または1000km走行のどちらか早い方に合わせて行われることを前提に組まれています。

※ オートバイを良好な状態に保つために、定期点検・メンテナンスはお近くのSYM正規販売店にておこなってください。

コード: I ~ 点検、清掃と調整　　R ~ 交換
C ~ 清掃 (必要に応じて交換)　　L ~ 潤滑

備考: 1. 埃の多い、大気汚染の多い地域で使用する場合は、エアクリーナーエレメントの交換をより頻繁に行ってください。
2. 頻繁に高速運転をする場合や、総走行距離が伸びてきたら、メンテナンスの頻度を上げることをお勧めします。

【備考の注記は、該当するモデルのみ指し示します】

17.仕様諸元

ﾓﾃﾞﾙ 項目	AV05W-6
全長	1905mm
全幅	690mm
全高	1125mm
軸距	1327mm
車両重量	99kg
エンジンタイプ	4-ストローク単気筒エンジン
燃料(ガソリン)	無鉛 (オクタン価 90 以上)
冷却方式	空冷
総排気量	49.5 c.c.
圧縮比	11.8±0.4 :1
最大馬力	2.35 kw/8500 rpm
最大トルク	2.91 N.m/6500 rpm
始動方式	セルモーター&キックスターター
ﾌﾛﾝﾄｼｮｯｸｱﾌﾞｿｰﾊﾞｰ	テレスコピック
ﾘｱｼｮｯｸｱﾌﾞｿｰﾊﾞｰ	ユニットスイング
クラッチ	遠心クラッチ
トランスミッション	CVT
フロントタイヤ	120/70-12
リアタイヤ	130/70-12
ホイール	アルミニウム
タイヤ空気圧	ﾌﾛﾝﾄ: STD 2.00 kg/cm^2, ﾘｱ: STD 2.00kg/cm^2/1名乗車時, 2.25kg/cm^2 / 2名乗車時
フロントブレーキ	ディスク式 (Ø 190 mm)
リアブレーキ	ドラム式 (Ø 130 mm)
ﾌﾛﾝﾄﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ(ﾊｲ、ﾛｰ)	HS1 12V 35/35W
ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ(ﾃｰﾙﾗｲﾄ)	12V 21W
ﾅﾝﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ	12V 5W
ﾀｰﾝｼｸﾞﾅﾙﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ	12V 10W
ｽﾋﾟｰﾄﾞﾒｰﾀｰﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ	12V 1.7W
エンジンオイル容量	0.85 L (0.75 L 交換時)
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｵｲﾙ容量	110c.c (100c.c 交換時)
燃料タンク容量	5.2L
ヒューズ	7A
スパークプラグ	TORCH A7RC
バッテリー容量	12V 6Ah(密閉式, メンテナンスフリーバッテリー)
エアクリーナー	紙式
燃料タンクキャップ	プッシュロック式
リアグラブフレーム	積載不可

保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理はSYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色
購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合
SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合
購入した製品をSYM が許可しない方法で改造した場合
不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用）不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体の滲みなど）転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合
天災および火災に起因する不具合
煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合
結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害
SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合
異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）
法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失）SYM 純正品以外の部品
アクセサリーやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失
保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定にのっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。

モータリスト合同会社